

彫刻

応募点数	18点	招待作品	9点
入賞点数	6点	展示点数	26点
入選点数	11点	移は移動展出品作品	

(総評)

今年は例年に比べて、若い方や女性の出品が増えて26点の展示となりました。

出品者の抱いたテーマは、とてもバラエティに富んだものになりました。人生に感じること、社会事象に感じること、生活のひとこまにふと感じること等をはじめ、宗教心に基づく仏像表現、民俗の表現など、幅広くそれぞれの作者の精神世界が披瀝されているように思います。

また、造形のための素材は、木材、石材、石膏、石粉材、粘土等いろいろありますが、今年は粘土を素材にしたテラコッタの作品が多く出品されました。

審査は、発想の独自性、技術の練度、彫刻的構成、単純化や象徴化、意図の明確さ、動きなどに目を向けて行いました。

なお、今年も、県の「次世代育成事業」の島根彫刻会共催講習会の中高生の作品から選抜したものを、同一会場内に展示させていただいたことを申し添えておきます。

(文責 山岡 弘迪)

金賞 移

KONJO

近田裕喜 (安来市)

岩石をつかむ樹根の力強さに接し、その感動を硬質の石材で表現しようとした作品です。つかむ岩を球形にすることで、樹根の力強さをいっそう象徴的にしようと意図しています。

石彫への斬新な試みが表わされた秀作です。

(文責 山岡 弘迪)

銀賞 移

金銀銅未来へ繋ぐ十代

岩崎光彦 (安来市)

東京オリンピックへの、高揚感と期待をテーマにした作品です。

安来産の荒島石は硬軟の変化の多い厳しい石ですが、この作品は重量感や安定感がよく表されています。作品中の三人の人物の表情には、石彫の喜びや苦心のあとがよく伺える秀作です。

(文責 山岡 弘迪)

銀賞 移

たばこさや

田村さつき (広島県)

郷里の老夫婦がお茶を飲んでいた様子を思い出して作られたものようです。題名は出雲弁で、「休憩をしましょう」という意味です。

体の全体や腕の形の単純化を試みているところや、テラコッタの柔らかな質感を生かして、なごやかな雰囲気追求をしている秀作です。(文責 山岡 弘迪)

銅賞 ③

しょうかん ぜ おん ぼ さつりゅうぞう
聖観世音菩薩立像

かわ もと えい じ
川本栄治 (松江市)

蓮華を持つ手の優しさ、光背の唐草模様の曲線にも神経を注ぎ、丹念に楠材を彫刻してある作品です。

技法と相まって、仏の慈悲の心が豊かに表現された秀作です。

(文責 山岡 弘迪)

銅賞 ③

もん
悶

す とう とよ ほる
周藤豊治 (松江市)

戦争や震災の酷さなど、将来への不安を立体で表現しようとした作品です。

主題を一つの塊まりとして表現しようとする作品への追求を、今後とも続けてもらいたいものです。(文責 山岡 弘迪)

銅賞 ③

Family

お ぞえ のぼる
尾添昇 (出雲市)

白くふくよかな、ボリュームの美しさを感じさせる作品です。母の懷に抱かれた、家族のあたたかさが伝わってきます。(文責 山岡 弘迪)

入選

題名	氏名	備考
聖観音菩薩	鶴原伸志 (松江市)	島根彫刻会賞
M嬢	原宏臣 (出雲市)	
③ 鬼・天上をしる	鈴木祐司 (益田市)	
布袋さん	日下悦郎 (出雲市)	
③ 好機	佐々木柳子 (江津市)	
③ 森の祈り	知念八重子 (邑南町)	
③ 夏の陽	石田富士 (江津市)	
ふくろう	南波隆之 (松江市)	
おけいこ	稲村守泰 (松江市)	
ここで君を待つ	神山千晶 (大田市)	
まどろむ	福田美都子 (出雲市)	

招待

	題名	氏名	備考
	遊ぶ	荒木文夫 (松江市)	
	a cloud	山岡弘 勉 (出雲市)	
⑩	まんまん、あん！	落合 誠 (江津市)	
	傘寿	井上 博 (松江市)	
	大地	佐藤信光 (安来市)	
	昼休み	伊藤 眞美 (出雲市)	
⑩	馬耳東風	田中俊 晞 (江津市)	
⑩	TOU	松本健 志 (出雲市)	
	行道10段三番叟	中尾芳 雄 (出雲市)	